

JP1 Cloud Service ジョブ管理プラットフォーム 利
用ガイド

JCSM04-0112-01

前書き

■ 対象製品

●ジョブ管理プラットフォーム - 標準モデル

SD-527318013 JP1 Cloud Service/Job Management Platform - Standard Mode 01-01 以降

●ジョブ管理プラットフォーム - 標準モデル リソース拡張オプション

SD-527318033 JP1 Cloud Service/Job Management Platform - Standard Model Resource Extension Option 01-01 以降

●ジョブ管理プラットフォーム - 高信頼モデル

SD-527318043 JP1 Cloud Service/Job Management Platform - High Reliability Model 01-01 以降

●ジョブ管理プラットフォーム - 高信頼モデル リソース拡張オプション

SD-527318053 JP1 Cloud Service/Job Management Platform - High Reliability Model Resource Extension Option 01-01 以降

●ジョブ管理プラットフォーム - エージェント (適用 OS : Windows Server 2022, Windows Server 2019, Windows Server 2016, Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2, Linux 6.1 (x64) 以降, Linux 7.1 以降, Linux 8.1 以降, Oracle Linux 6 (x64), Oracle Linux 7, Oracle Linux 8, SUSE Linux 12, SUSE Linux 15, CentOS 6 (x64), CentOS 7, CentOS 8)

SD-527318023 JP1 Cloud Service/Job Management Platform - Agent 01-01 以降

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, JP1 は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

Amazon Web Services, AWS, Powered by AWS ロゴ, アマゾン ウェブ サービスは、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。

Azure は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Internet Explorer は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Microsoft Edge は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Oracle および Java は、オラクルおよびその関連会社の登録商標です。

Windows は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Windows Server は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

マイクロソフトの許可を得て使用しています。

■ マイクロソフト製品の表記

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	正式名称
Internet Explorer	Windows(R) Internet Explorer(R)
Windows Server 2012	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
Windows Server 2012 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
Windows Server 2016	Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2016 Standard
Windows Server 2019	Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2019 Standard
Windows Server 2022	Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2022 Standard

Windows Server 2022, Windows Server 2019, Windows Server 2016, Windows Server 2012 R2, および Windows Server 2012 を総称して Windows と表記することがあります。

■ 発行

2023 年 1 月 JCSM04-0112-01

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2021, 2023, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(JCSM04-0112-01) JP1 Cloud Service 01-12

追加・変更内容	変更箇所
ジョブ管理マネージャー上でのジョブ実行の説明を追加した。	4章, 付録 A.1, 付録 B
リソース拡張オプションなしにおけるジョブ実行の想定数を変更した。	付録 A.1
REST API 接続の説明を追加した。	1.5.2, 付録 B
判定ジョブの機能提供有無を訂正した。	付録 B
ジョブ管理プラットフォームの「高信頼モデル」における系切り替えへの注意事項を追加した。	1.3.3

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは JP1 Cloud Service で提供する、ジョブ管理プラットフォームの利用方法について説明したものです。

■ 対象読者

このマニュアルは次の方にお読みいただくことを前提に説明しています。

- JP1 Cloud Service / ジョブ管理プラットフォームの導入を検討されている方
- JP1 Cloud Service / ジョブ管理プラットフォームの概要や基本的な使い方を理解しようとしている方
- JP1 Cloud Service / ジョブ管理プラットフォームを利用されているお客様で、ジョブの設計や運用をする方

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 ジョブ管理プラットフォームの概要

ジョブ管理プラットフォームの機能概要と特長、利用するための準備について説明しています。

第 2 章 ジョブ管理プラットフォームを利用するための構築

ジョブ管理プラットフォームを利用するための構築作業(インストール、セットアップなど)について説明しています。

第 3 章 ジョブ管理プラットフォームの利用方法 (基本編)

ジョブ管理プラットフォームにおける業務の定義、実行、監視の方法について説明しています。

第 4 章 ジョブ管理プラットフォームの利用方法 (応用編)

ジョブ管理プラットフォームにおける応用的な機能や操作について説明しています。

付録 A 提供環境のパラメータ

ジョブ管理プラットフォームにおける各種パラメータについて説明しています。

付録 B 機能の提供有無一覧

ジョブ管理プラットフォームと JP1/AJS3 の機能差異について説明しています。

付録 C 各バージョンの変更内容

各バージョンの変更内容について説明しています。

付録 D このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明しています。

付録 E 用語解説

このマニュアルで使用する用語について説明しています。

■ マニュアルの読み方

このマニュアルでは、ジョブ管理プラットフォームを利用するための準備、およびジョブ管理プラットフォームにおける基本的な業務の定義、実行、監視の方法について説明しています。応用的な機能や操作を知りたい場合は、次の表を参考に、JP1/AJS3のマニュアルをお読みください。

#	利用目的	対象マニュアル
1	ジョブ管理プラットフォームの操作の詳細を知りたい。	<ul style="list-style-type: none">JP1 Version 12 JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイドJP1 Version 12 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス
2	ジョブ管理プラットフォームの機能の詳細を知りたい。	<ul style="list-style-type: none">JP1 Version 12 JP1/Automatic Job Management System 3 導入ガイド
3	ジョブ管理プラットフォームを利用するためのジョブ実行エージェントやジョブ管理ビューアーの構築の詳細を知りたい。	<ul style="list-style-type: none">JP1 Version 12 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (システム構築編)JP1 Version 12 JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド
4	ジョブ管理プラットフォームにおいて自動化する業務の設計方法の詳細を知りたい。	<ul style="list-style-type: none">JP1 Version 12 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (業務設計編)
5	ジョブ管理プラットフォームにおける業務の運用や監視の詳細を知りたい。	<ul style="list-style-type: none">JP1 Version 12 JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド
6	ジョブ管理プラットフォームにおけるジョブ実行エージェントやジョブ管理ビューアー利用時のトラブルの対処方法について知りたい。	<ul style="list-style-type: none">JP1 Version 12 JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティングJP1 Version 12 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ

なお、JP1 (Version 12) のマニュアルは以下の Web ページで公開されています。

https://itpfdoc.hitachi.co.jp/Pages/document_list/manuals/jp1v12.html

目次

前書き	2
変更内容	4
はじめに	5

1	ジョブ管理プラットフォームの概要	9
1.1	ジョブ管理プラットフォームの特長	10
1.2	システム構成	11
1.3	ジョブ管理プラットフォームの機能	12
1.3.1	提供機能	12
1.3.2	JP1/AJS3 との機能差異	12
1.3.3	標準モデルと高信頼モデルとの差異	13
1.4	統合管理プラットフォームとの連携	14
1.5	ジョブ管理プラットフォーム利用の準備	15
1.5.1	前提ソフトウェアの準備	15
1.5.2	ジョブ管理プラットフォームへの接続	16
2	ジョブ管理プラットフォームを利用するための構築	19
2.1	構築の流れ	20
2.2	サービス利用ユーザーの作成	21
2.2.1	サービスポータルของทีม作成	21
2.2.2	サービスポータルのユーザー作成	21
2.2.3	JP1 ユーザー作成	21
2.3	ジョブ実行エージェントの構築	22
2.3.1	構築対象サーバの準備	22
2.3.2	ジョブ実行エージェントのインストール・セットアップ	22
2.3.3	ジョブ管理マネージャーへのジョブ実行エージェント登録	23
2.4	ジョブ管理ビューアーの構築	24
2.4.1	構築対象端末の準備	24
2.4.2	ジョブ管理ビューアーのインストール・セットアップ	24
2.4.3	ジョブ管理マネージャーへのログイン確認	24
3	ジョブ管理プラットフォームの利用方法（基本編）	26
3.1	業務の自動化	27
3.1.1	業務を運用する前に	27
3.1.2	業務の定義	27

- 3.1.3 業務の実行 27
- 3.1.4 業務の監視 27
- 3.1.5 業務の定義の修正と再実行 27

4 ジョブ管理プラットフォームの利用方法（応用編） 28

- 4.1 ジョブ管理マネージャー上でのジョブ実行 29
 - 4.1.1 ジョブ管理マネージャー上でのジョブ実行の仕組み 29
 - 4.1.2 ジョブ管理マネージャー上でジョブを実行するための手順 29

付録 33

- 付録 A 提供環境のパラメータ 34
 - 付録 A.1 ジョブ管理プラットフォームの利用における前提内容 34
 - 付録 A.2 ジョブ管理プラットフォームに設定されているパラメータ 34
 - 付録 A.3 ジョブ管理プラットフォームで転送する JP1 イベント 35
 - 付録 A.4 JP1/AJS3 - Agent に設定が推奨されるパラメータ 36
 - 付録 A.5 JP1/AJS3 - Definition Assistant に設定が必要なパラメータおよび設定が推奨されるパラメータ 39
- 付録 B 機能の提供有無一覧 41
- 付録 C 各バージョンの変更内容 55
 - 付録 C.1 01-12 の変更内容 55
 - 付録 C.2 01-11 の変更内容 55
 - 付録 C.3 01-10 の変更内容 55
 - 付録 C.4 01-01 の変更内容 55
- 付録 D このマニュアルの参考情報 56
 - 付録 D.1 製品名の表記 56
- 付録 E 用語解説 57

索引 59

1

ジョブ管理プラットフォームの概要

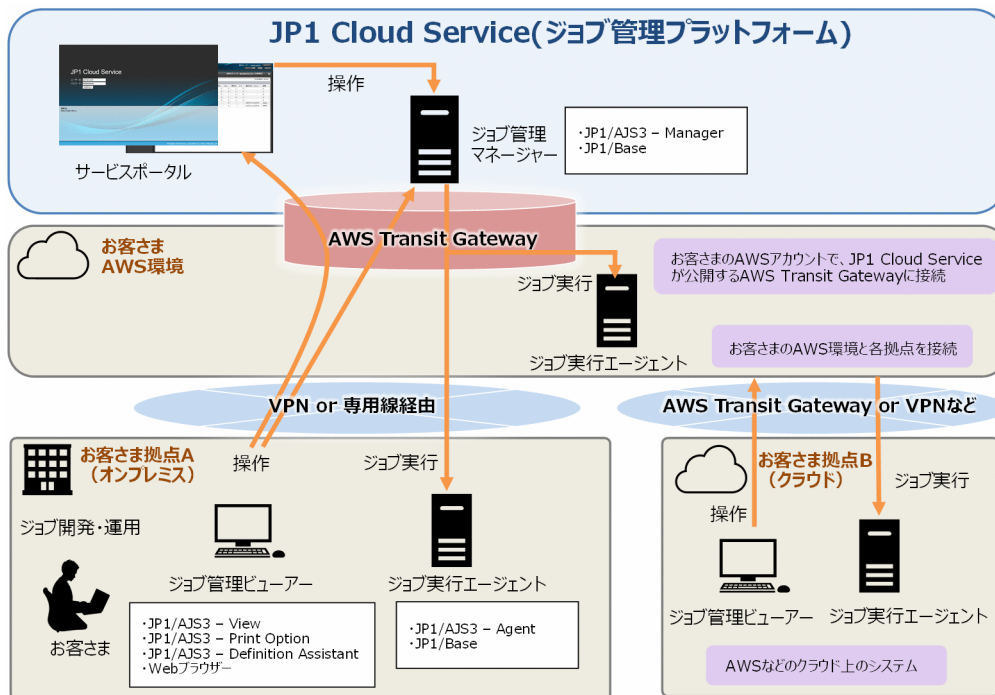
ジョブ管理プラットフォームの機能概要と特長，利用するための準備について説明します。

1.1 ジョブ管理プラットフォームの特長

ジョブ管理プラットフォームは、定型的・定期的な業務を自動化するための機能を提供します。複数の業務の内容と実行順序を定義することで、業務を自動で処理できるようになります。また、業務の実行を開始する時刻をあらかじめ定義しておいたり、何らかの事象が起こったときに業務を開始するように定義したりすることもできるため、複雑な業務も自動化できます。

1.2 システム構成

ジョブ管理プラットフォームのシステム構成例を以下に示します。



JP1 Cloud Service を利用するためには、以下の接続が必要です。接続方法の詳細については、「JP1 Cloud Service 導入ガイド」を参照してください。

- お客さまの AWS 環境や Azure 環境と、JP1 Cloud Service とを接続する。
(AWS 環境の場合、お客さまの AWS アカウントで、JP1 Cloud Service が公開する AWS Transit Gateway に接続する。Azure 環境の場合、お客さまの Azure アカウントで、JP1 Cloud Service に VPN で接続する。)

また、お客さまのオンプレミスや各種クラウドから JP1 Cloud Service を利用する場合は、以下の接続が必要です。

- お客さまの AWS 環境や Azure 環境と、各拠点とを VPN や専用線等で接続する。

この利用ガイドでは、上記接続が完了しているという前提で後続の作業を説明しています。

接続構成に応じて、お客さま拠点やお客さま AWS 環境、Azure 環境にジョブ実行エージェントやジョブ管理ビューアーを用意してください。これらを用意することで、JP1 Cloud Service のジョブ管理プラットフォームを利用できます。利用にあたっての準備については、「1.5 ジョブ管理プラットフォーム利用の準備」を参照してください。

1.3 ジョブ管理プラットフォームの機能

1.3.1 提供機能

ジョブ管理プラットフォームの提供する機能の概要は以下の通りです。

#	機能	機能概要
1	業務の定義	ジョブやジョブネットを定義するための機能です。 機能の利用方法については、「3.1.2 業務の定義」を参照してください。
2	業務の実行	定義内容に従ってジョブやジョブネットを実行するための機能です。 機能の利用方法については、「3.1.3 業務の実行」を参照してください。
3	業務の監視	ジョブやジョブネットの実行予定や実行状況、実行結果を確認するための機能です。 機能の利用方法については、「3.1.4 業務の監視」を参照してください。

1.3.2 JP1/AJS3 との機能差異

ジョブ管理プラットフォームでは、JP1/AJS3 の製品と比較して、使用可能な機能に差異があります。主な機能差異を以下に示します。

- JP1 Cloud Service 01-12 以降では、ジョブ管理マネージャーでコマンドを実行することができます。JP1 Cloud Service 01-11 以前では、ジョブ管理マネージャーを直接操作する機能を使用することはできません※1。
- JP1 Cloud Service 01-12 以降では、ジョブ管理マネージャー上の/usrfile 配下にスクリプトを配置して実行できます※2。JP1 Cloud Service 01-11 以前では、ジョブ管理マネージャーにスクリプトやプログラムを導入することはできません。
- QUEUE ジョブ、サブミットジョブ、キューレスジョブ、フレキシブルジョブ、リモートジョブネットを使用することはできません。

注※1

運用に必要な機能のうち、ジョブ管理マネージャーを直接操作する必要があるものは、サービスポータルにて機能を提供します。サービスポータルの詳細については、「JP1 Cloud Service サービスポータル 利用ガイド」を参照してください。

JP1 Cloud Service 01-11 以前において、ジョブ管理マネージャー上でしか実行できないジョブの実行が必要な場合には、サービス窓口までお問い合わせください。

注※2

JP1 Cloud Service 01-12 以降において、ジョブ管理マネージャー上へスクリプトを配置するには、お客様側で用意したスクリプトをサービスポータル経由で、ジョブ管理マネージャー上の/usrfile 配下に

アップロードします。サービスポータル上の操作については、「JP1 Cloud Service サービスポータル 利用ガイド」を参照してください。

機能の提供有無の詳細については「付録 B 機能の提供有無一覧」を参照してください。

また、機能を利用するにあたり、必要に応じてジョブ管理プラットフォームの利用における前提内容や設定されているパラメータを確認してください。詳細については「付録 A 提供環境のパラメータ」を参照してください。

1.3.3 標準モデルと高信頼モデルとの差異

ジョブ管理プラットフォームのジョブ管理マネージャーには、「標準モデル」と「高信頼モデル」の2つのモデルがあります。高信頼モデルは、標準モデルを冗長化して稼働率を向上したモデルです。

標準モデルでは、メンテナンス時間内に、ジョブ管理プラットフォームを利用できません。

高信頼モデルでは、系切替えを10分程度で行います。系切替え中、ジョブ管理プラットフォームは、単一構成で稼働します※。

注※

高信頼モデルで系切替えが必要な場合、JP1/AJS3 に関しては新規のジョブ実行や、ジョブの実行結果の報告、JP1/AJS3 - View での接続・操作は行えません。新規のジョブ実行やジョブの実行結果の報告は、最大10分間遅れて処理されます。

1.4 統合管理プラットフォームとの連携

JP1 Cloud Service では、ジョブ管理プラットフォームのほかに、統合管理プラットフォームも提供しています。ジョブ管理プラットフォームと統合管理プラットフォームを同時に利用開始した場合、両者を連携させることができます。この連携によって実施できることを以下に示します。

- JP1 ユーザー認証統合

ジョブ管理プラットフォームと統合管理プラットフォームを同一の JP1 ユーザーで利用することができます。

- モニター起動

統合管理プラットフォームでジョブネットの異常に関するイベントを受信した際に、イベントコンソール画面に表示されているイベントを選択することで、その表示内容に関連する JP1/AJS3 - View の画面を起動することができます。

- プロアクティブ監視

ジョブ管理プラットフォームにおけるジョブ実行状況やサービス利用状況を監視し、統合管理プラットフォーム上でトレンド情報として表示することができます。

1.5 ジョブ管理プラットフォーム利用の準備

ジョブ管理プラットフォームの利用を開始するために必要な準備について説明します。

1.5.1 前提ソフトウェアの準備

用途に応じて、前提ソフトウェアを準備してください。

ジョブ管理ビューアーの前提ソフトウェアを次に示します。

#	用途	前提ソフトウェア※1	ジョブ管理プラットフォームでのソフトウェア提供有無
1	ジョブの定義・実行・監視を実施する場合	JP1/AJS3 - View 09-00 以降	○※2
2	ジョブ運用情報のドキュメント出力を実施する場合	JP1/AJS3 - Print Option 09-00 以降	○※3
3	ジョブ定義情報を一括管理する場合	JP1/AJS3 - Definition Assistant 11-50 以降	—※4
4	ジョブの実行・監視のみを実施する場合	Windows(R) Internet Explorer(R) 11 または Firefox(R) ESR 91 または Google Chrome 92 以降 または Microsoft Edge 92 以降	—
5	サービスポータルを利用する場合	マニュアル「JP1 Cloud Service サービスポータル 利用ガイド」における「1.1 利用可能な Web ブラウザー」に記載された Web ブラウザー	—

注※1

前提ソフトウェアの前提となるソフトウェアについては、各ソフトウェアのリリースノートを参照してください。

注※2

ジョブ管理プラットフォームには、JP1/AJS3 - View(12-00 以降)の利用権が 2 台分含まれています。2 台を超える台数を利用する場合には、別途製品版のソフトウェアを購入してください。

注※3

JP1/AJS3 - View に同梱されています。

注※4

ジョブ管理プラットフォームには利用権が含まれていません。利用する場合には、別途製品版のソフトウェアを購入してください。

ジョブ実行エージェントの前提ソフトウェアを次に示します。

1. ジョブ管理プラットフォームの概要

#	用途	前提ソフトウェア※1	ジョブ管理プラットフォームでのソフトウェア提供有無
1	エージェントでジョブを実行する場合	JP1/Base 12-00 以降 および JP1/AJS3 - Agent 12-00 以降	○※2

注※1

前提ソフトウェアの前提となるソフトウェアについては、各ソフトウェアのリリースノートを参照してください。

注※2

ジョブ管理プラットフォームの「エージェント」メニューで利用権を提供しています。必要数分の利用権を入手してください。「エージェント」メニューの適用 OS は、Windows および Linux です。

1.5.2 ジョブ管理プラットフォームへの接続

ジョブ管理プラットフォームで利用するポート番号の一覧を次に示します。必要なポートの設定を実施し、お客さま拠点とジョブ管理プラットフォームとの間で通信ができるようにしてください。

(1) ジョブ実行エージェントとジョブ管理マネージャーとの間で使用するポート

#	ポート	通信元	通信先	用途
1	ICMP	ジョブ管理マネージャー	ジョブ実行エージェント	接続確認用
2		ジョブ実行エージェント	ジョブ管理マネージャー	
3	20241/tcp	ジョブ実行エージェント	ジョブ管理マネージャー	ジョブの登録用
4	20242/tcp	ジョブ管理マネージャー	ジョブ実行エージェント	ジョブ実行要求用
5	20243/tcp	ジョブ実行エージェント	ジョブ管理マネージャー	ジョブの開始通知, 終了通知用
6	20246/tcp	ジョブ実行エージェント	ジョブ管理マネージャー	イベントジョブ実行用
7	20247/tcp	ジョブ管理マネージャー	ジョブ実行エージェント	イベントジョブ実行用
8	20301/tcp	ジョブ実行エージェント	ジョブ管理マネージャー	イベントジョブ実行用

(2) ジョブ管理ビューアーとジョブ管理マネージャー・サービスポータルとの間で使用するポート

#	ポート	通信元	通信先	用途
1	80/tcp	ジョブ管理ビューアー	サービスポータル	サービスポータルへの接続用

#	ポート	通信元	通信先	用途
2	20244/tcp	ジョブ管理ビューアー	ジョブ管理マネージャー	ジョブ管理ビューアー通信 (JP1/AJS3 - View, JP1/AJS3 - Definition Assistant)
3	22252/tcp	ジョブ管理ビューアー	ジョブ管理マネージャー	ジョブ管理ビューアー通信 (Web GUI)
4	24201/tcp	ジョブ管理ビューアー	ジョブ管理マネージャー	ジョブ管理ビューアー通信 (JP1/AJS3 - Print Option)

(3) お客さま拠点の JP1/IM または JP1/IM2 サーバとジョブ管理マネージャーとの間で使用するポート

ジョブ管理マネージャーからお客さま拠点の JP1/IM または JP1/IM2 へイベントを転送する設定をしている場合にのみ該当します。

#	ポート	通信元	通信先	用途
1	ICMP	ジョブ管理マネージャー	お客さま拠点の JP1/IM または JP1/IM2 サーバ	接続確認用
2		お客さま拠点の JP1/IM または JP1/IM2 サーバ	ジョブ管理マネージャー	
3	20098/tcp	ジョブ管理マネージャー	お客さま拠点の JP1/IM または JP1/IM2 サーバ	イベント連携用

(4) ジョブ運用データ分析サービスとジョブ管理マネージャーとの間で使用するポート

ジョブ管理プラットフォームとジョブ運用データ分析サービスを連携する場合にのみ該当します。

#	ポート	通信元	通信先	用途
1	ICMP	ジョブ管理マネージャー	ジョブ運用データ分析サービスのクラウドゲートウェイ	接続確認用
2		ジョブ運用データ分析サービスのクラウドゲートウェイ	ジョブ管理マネージャー	
3	22/tcp	ジョブ運用データ分析サービスのクラウドゲートウェイ	ジョブ管理マネージャー	ジョブ稼働実績収集用

(5) REST API 接続で使用するポート

#	ポート	通信元	通信先	用途
1	80/tcp	ジョブ管理マネージャー	任意のユーザーアプリケーション	REST API 接続用
2	443/tcp	ジョブ管理マネージャー	任意のユーザーアプリケーション	
3	22252/tcp	任意のユーザーアプリケーション	ジョブ管理マネージャー	

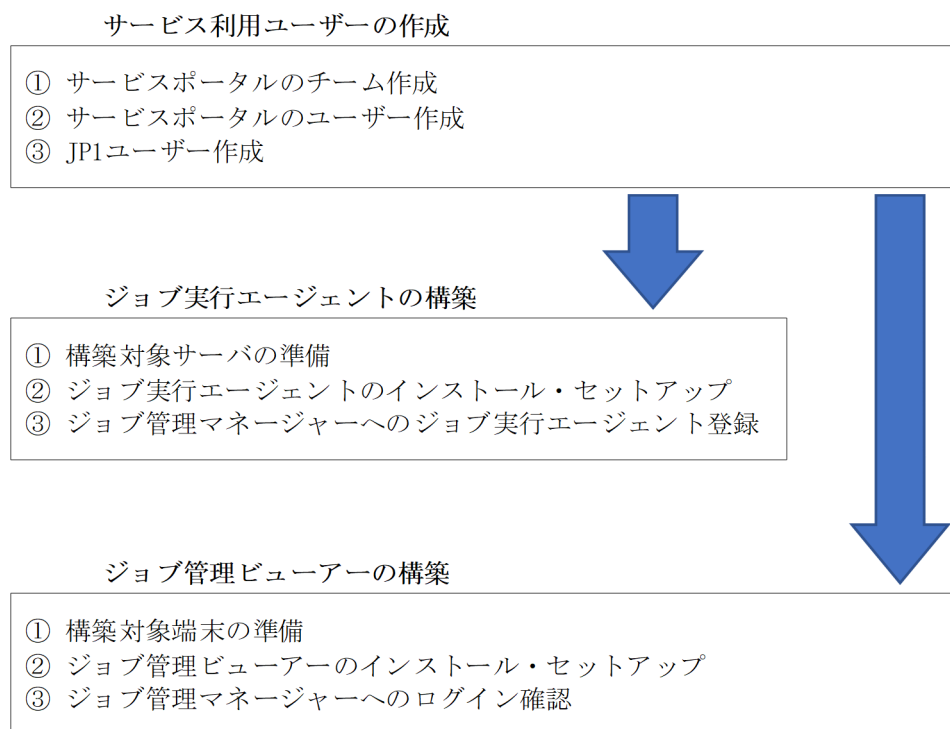
2

ジョブ管理プラットフォームを利用するための構築

ジョブ管理プラットフォームを利用して定型的・定期的な業務を自動化するために、まずは利用するための環境の構築を行きましょう。この章では、ジョブ管理プラットフォームの利用に必要な環境を構築する方法を説明します。

2.1 構築の流れ

ジョブ管理プラットフォームの利用に必要な環境を構築し、利用を開始するまでの流れを以下に示します。



これらの作業が完了すると、ジョブ管理プラットフォームの利用を開始することができます。なお、ジョブ実行エージェントとジョブ管理ビューアーの構築順に決まりはありません。

2.2 サービス利用ユーザーの作成

2.2.1 サービスポータルของทีม作成

サービスポータルを利用し、サービスポータルของทีมを作成してください。チームの作成方法については、「JP1 Cloud Service サービスポータル 利用ガイド」における「1.3.2 チームの作成」を参照してください。

2.2.2 サービスポータルのユーザー作成

サービスポータルを利用し、サービスポータルのユーザーを作成してください。ユーザーの作成方法については、「JP1 Cloud Service サービスポータル 利用ガイド」における「1.3.3 ポータルのユーザーの作成」を参照してください。

初期ユーザーを利用していた場合は、本項で作成したユーザーを利用し、以降の構築手順を実施してください。

2.2.3 JP1 ユーザー作成

サービスポータルを利用し、JP1 ユーザーを作成してください。JP1 ユーザーの作成方法については、「JP1 Cloud Service サービスポータル 利用ガイド」における「1.3.8 JP1 ユーザーの操作」を参照してください。本項で作成したJP1 ユーザーでジョブ管理の機能を利用できます。

2.3 ジョブ実行エージェントの構築

2.3.1 構築対象サーバの準備

(1) Windows の場合

ジョブ実行エージェントとなるサーバを準備してください。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」における、「1. JP1/AJS3 の構築 (Windows の場合)」の「1.2 インストール前の準備」を参照し、インストールをする前に必要な準備をしてください。なお、準備事項のうち、ジョブ管理マネージャー(マネージャーホスト)と Web Console サーバに関するものはジョブ管理プラットフォーム側で実施済みのため、実施不要です。

(2) Linux の場合

ジョブ実行エージェントとなるサーバを準備してください。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」における、「2. JP1/AJS3 の構築 (Linux の場合)」の「2.2 インストール前の準備」を参照し、インストールをする前に必要な準備をしてください。なお、準備事項のうち、ジョブ管理マネージャー(マネージャーホスト)と Web Console サーバに関するものはジョブ管理プラットフォーム側で実施済みのため、実施不要です。

2.3.2 ジョブ実行エージェントのインストール・セットアップ

(1) Windows の場合

ジョブ実行エージェントとなるサーバに、JP1/Base と JP1/AJS3 - Agent をインストールおよびセットアップします。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」における、「1. JP1/AJS3 の構築 (Windows の場合)」の「1.4 エージェントホストのインストールとセットアップ」を参照し、インストールとセットアップをしてください。

なお、サービスポータルからセットアップを支援するツールをダウンロードできます。詳細については「JP1 Cloud Service サービスポータル 利用ガイド」における「9.2.2 エージェントセットアップ支援ツール」を参照してください。

また、JP1/AJS3 - Agent には、ジョブ管理プラットフォームとして設定が推奨されるパラメータがあります。「付録 A.4 JP1/AJS3 - Agent に設定が推奨されるパラメータ」を参照し、パラメータの設定を検討してください。

(2) Linux の場合

ジョブ実行エージェントとなるサーバに、JP1/Base と JP1/AJS3 - Agent をインストールおよびセットアップします。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」における、「2. JP1/AJS3 の構築 (Linux の場合)」の「2.4 エージェントホストのインストールとセットアップ」を参照し、インストールとセットアップをしてください。

なお、サービスポータルからセットアップを支援するツールをダウンロードできます。詳細については「JP1 Cloud Service サービスポータル 利用ガイド」における「9.2.2 エージェントセットアップ支援ツール」を参照してください。

また、JP1/AJS3 - Agent には、ジョブ管理プラットフォームとして設定が推奨されるパラメータがあります。「付録 A.4 JP1/AJS3 - Agent に設定が推奨されるパラメータ」を参照し、パラメータの設定を検討してください。

2.3.3 ジョブ管理マネージャーへのジョブ実行エージェント登録

サービスポータルを利用し、ジョブ管理マネージャーにジョブ実行エージェントと hosts 情報を登録してください。ジョブ管理マネージャーに hosts 情報を登録する方法については、「JP1 Cloud Service サービスポータル 利用ガイド」における「1.3.9 hosts 情報の操作」を参照してください。ジョブ管理マネージャーにジョブ実行エージェントを登録する方法については、「JP1 Cloud Service サービスポータル 利用ガイド」における「1.3.10 実行エージェントの操作」を参照してください。

2.4 ジョブ管理ビューアーの構築

2.4.1 構築対象端末の準備

ジョブ管理ビューアーとなる端末を準備してください。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」における、「1. JP1/AJS3 の構築 (Windows の場合)」の「1.2 インストール前の準備」を参照し、インストールをする前に必要な準備をしてください。なお、準備事項のうち、ジョブ管理マネージャー(マネージャーホスト)と Web Console サーバに関するものはジョブ管理プラットフォーム側で実施済みのため、実施不要です。

2.4.2 ジョブ管理ビューアーのインストール・セットアップ

ジョブ管理ビューアーとなる端末に、JP1/AJS3 - View をインストールおよびセットアップします。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」における、「1. JP1/AJS3 の構築 (Windows の場合)」の「1.5 JP1/AJS3 - View ホストのインストールとセットアップ」を参照し、インストールおよびセットアップをしてください。

関連プログラムの JP1/AJS3 - Print Option のインストール・セットアップ方法については、JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 JP1/Automatic Job Management System 3 - Print Option」の「3. インストールとセットアップ」を参照してください。

また、関連プログラムの JP1/AJS3 - Definition Assistant のインストール・セットアップ方法については、JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 JP1/Automatic Job Management System 3 - Definition Assistant」の「3. インストールとセットアップ」を参照してください。

JP1/AJS3 - Definition Assistant には、ジョブ管理プラットフォームとして設定が必要なパラメータと設定が推奨されるパラメータがあります。「[付録 A.5 JP1/AJS3 - Definition Assistant に設定が必要なパラメータおよび設定が推奨されるパラメータ](#)」を参照し、パラメータの設定を実施してください。

2.4.3 ジョブ管理マネージャーへのログイン確認

(1) JP1/AJS3 - View でジョブ管理マネージャーにログインする

JP1/AJS3 - View を使ってジョブを定義・実行するには、ジョブ管理マネージャーへログインする必要があります。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」における、「1. JP1/AJS3 の構築 (Windows の場合)」の「1.7 JP1/AJS3 - View で JP1/AJS3 - Manager にログインする」を参照し、ジョブ管理マネージャーにログインしてください。

なお、ログインする JP1 ユーザーの情報には、前述の「[2.2.3 JP1 ユーザー作成](#)」で作成した JP1 ユーザーを利用してください。

(2) Web ブラウザーでジョブ管理マネージャーにログインする

Web GUI を使って業務を監視するには、Web ブラウザーからジョブ管理マネージャーへログインする必要があります。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」における、「1. JP1/AJS3 の構築 (Windows の場合)」の「1.8 Web ブラウザーで JP1/AJS3 - Web Console にログインする」を参照し、ジョブ管理マネージャーにログインしてください。

なお、ログインする JP1 ユーザーの情報には、前述の「[2.2.3 JP1 ユーザー作成](#)」で作成した JP1 ユーザーを利用してください。

3

ジョブ管理プラットフォームの利用方法（基本編）

ジョブ管理プラットフォームを利用するための構築が終わったら、ジョブ管理プラットフォームを使用した業務の自動化を始めましょう。この章では、ジョブ管理ビューアーを使ってジョブネットを定義・実行・監視する方法について説明します。

3.1 業務の自動化

3.1.1 業務を運用する前に

JP1/AJS3 - View を使って業務を定義・実行・監視する流れと、JP1/AJS3 - View のメイン画面および Web GUI の [ダッシュボード] 画面と [リスト] 画面の基本的な構成について説明します。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」の「3. 業務を運用する前に」を参照し、業務を定義・実行・監視する流れと画面の基本的な構成について確認してください。

3.1.2 業務の定義

ジョブ、ジョブネット、ジョブグループを定義して、実行スケジュールを設定しましょう。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」の「4. 業務の定義」を参照し、ユニットの定義、およびジョブネットの運用スケジュールの設定を実施してください。

3.1.3 業務の実行

ジョブおよびジョブネットの詳細と運用スケジュールを定義したら、ジョブネットを実行しましょう。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」の「5. 業務の実行」を参照し、ジョブネットの実行登録を実施してください。

3.1.4 業務の監視

ジョブネットを実行したら、ジョブネットが正常に実行されているかどうか、実行状況を監視しましょう。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」の「6. 業務の監視」を参照し、ジョブやジョブネットの実行結果を確認してください。

3.1.5 業務の定義の修正と再実行

ジョブやジョブネットが異常終了した場合や、詳細定義を変更したい場合、定義を修正して業務を再実行しましょう。

JP1 のマニュアル「JP1 Version 12 ジョブ管理 基本ガイド (ジョブスケジューラー編)」の「7. 業務の定義の修正と再実行」を参照し、必要に応じてジョブネットの定義を修正したあとにジョブネットを再実行してください。

4

ジョブ管理プラットフォームの利用方法（応用編）

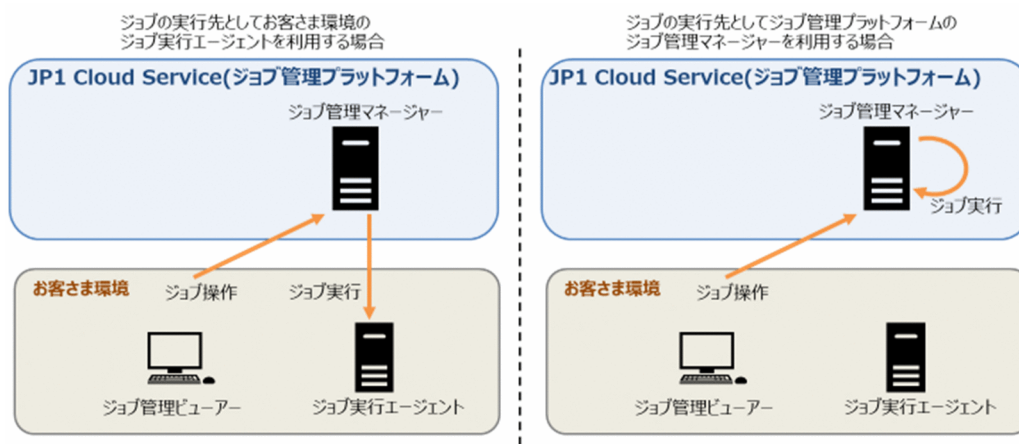
ジョブ管理プラットフォームにおける応用的な機能や操作について説明します。

4.1 ジョブ管理マネージャー上でのジョブ実行

4.1.1 ジョブ管理マネージャー上でのジョブ実行の仕組み

ジョブ管理プラットフォームでジョブを実行する場合、ジョブの実行先を指定する必要があります。ジョブ管理マネージャー上でジョブを実行するには、ジョブの実行先としてジョブ管理マネージャー自身を指定する必要があります。

ジョブの実行先のエージェントとしてお客さま環境のジョブ実行エージェントを利用する場合と、ジョブの実行先のエージェントとしてジョブ管理プラットフォームのジョブ管理マネージャーを利用する場合の、ジョブ実行の流れの違いを以下に示します。



4.1.2 ジョブ管理マネージャー上でジョブを実行するための手順

次に、ジョブ管理マネージャー上でジョブを実行する場合に、必要となる手順について説明します。

(1) ジョブの実行先の設定

ジョブ管理マネージャー上でジョブを実行する場合に、どのジョブにおいても共通で必要となる手順について説明します。

サービスポータルを利用し、ジョブの実行先のエージェントとしてジョブ管理マネージャー自身を指定できるようにします。ジョブ管理マネージャー自身は、「@SYSTEM」という名称でジョブ実行エージェントとして登録されています。「JP1 Cloud Service サービスポータル 利用ガイド」における「1.3.10 実行エージェントの操作」を参照し、ジョブを実行できるように@SYSTEMのジョブ実行多重度を設定してください。@SYSTEMの設定の変更にあたっては、以下の注意事項があります。

注意事項

- @SYSTEMのジョブ実行多重度には、0~120の範囲内の値を設定してください。この範囲を超えてジョブ実行多重度を設定した場合の動作は保証できません。

- @SYSTEM のジョブの受付配信制限の状態を変更することはできません。
- @SYSTEM の実行ホスト名を変更することはできません。
- @SYSTEM を実行エージェントグループに関連付けることはできません。
- @SYSTEM を削除することはできません。

(2) ジョブ管理マネージャー上でコマンドを実行するための手順

ジョブ管理マネージャー上でコマンドを実行するために必要な手順を以下に示します。

(a) ジョブの詳細定義

JP1/AJS3 - View を利用し、UNIX ジョブの詳細定義に以下の項目を指定してください。

#	分類	項目	指定内容	
1	共通	ユニット名	任意	
2		コメント	任意	
3		実行エージェント	@SYSTEM	
4	定義	コマンド文	任意のコマンド (OS コマンド, JP1 ミドルコマンド, /usrfile 配下のスクリプト)	
5		スクリプト名	任意	
6		パラメータ	任意	
7		環境変数	任意	
8		環境変数ファイル名	指定なし または /usrfile 配下のパス	
9		ワークパス	指定なし または /usrfile 配下のパス	
10		実行優先順位	任意	
11		標準入力ファイル名	指定なし または /usrfile 配下のパス	
12		標準出力ファイル名	指定なし または /usrfile 配下のパス	
13		標準エラー出力ファイル名	指定なし または /usrfile 配下のパス	
14		終了判定	任意	
15			警告しきい値	任意
16			異常しきい値	任意
17			異常終了時リトライ	任意
18		実行時のユーザー	指定なし または 任意	
19	転送ファイル	転送ファイル 1	転送元ファイル名	指定なし または /usrfile 配下のパス
20			転送先ファイル名	指定なし または /usrfile 配下のパス

#	分類	項目	指定内容	
21	転送ファイル	転送ファイル 1	ジョブ終了後	指定なし または /usrfile 配下のパス
22		転送ファイル 2	転送元ファイル名	指定なし または /usrfile 配下のパス
23			転送先ファイル名	指定なし または /usrfile 配下のパス
24			ジョブ終了後	指定なし または /usrfile 配下のパス
25		転送ファイル 3	転送元ファイル名	指定なし または /usrfile 配下のパス
26			転送先ファイル名	指定なし または /usrfile 配下のパス
27			ジョブ終了後	指定なし または /usrfile 配下のパス
28		転送ファイル 4	転送元ファイル名	指定なし または /usrfile 配下のパス
29			転送先ファイル名	指定なし または /usrfile 配下のパス
30			ジョブ終了後	指定なし または /usrfile 配下のパス
31		属性	保留	任意
32			種別	任意
33	実行先サービス		標準	
34	打ち切り時間指定		任意	
35	打ち切り時間		任意	
36	終了遅延監視		任意	
37	所有者		任意	
38	JP1 資源グループ		指定なし または 任意	
39	実行ユーザー種別		登録ユーザー または 所有ユーザー	

上記の UNIX ジョブを実行することで、ジョブ管理マネージャー上でコマンドが実行されます。

コマンド実行方法について説明します。

REST API を利用する場合のコマンド実行方法について説明します。UNIX ジョブのコマンド文または、/usrfile 配下に配置されたスクリプトから wget, curl コマンドを実行することで任意のユーザーアプリケーションに対して REST API を発行することができます。wget, curl コマンドを実行する際、送信元アドレス情報にジョブ管理マネージャーの接続ホスト名を指定してください。

ジョブ管理マネージャーから任意のユーザーアプリケーションに通信する際のコマンド例を次に示します。

- wget --bind-address=ジョブ管理マネージャーの接続ホスト名 その他オプション URL
- curl --interface ジョブ管理マネージャーの接続ホスト名 その他オプション URL

次に、ジョブの保留・保留解除のコマンド実行方法について説明します。UNIX ジョブのコマンド文を実行することによって、ジョブ管理マネージャーに登録されているジョブを一時的に保留状態にしたり、ジョブの保留状態を一時的に解除したりできます。ジョブの保留をする際のコマンド例を次に示します。

- `/opt/jp1ajs2/bin/ajsplan -F スケジューラサービス名 -h 保留対象ユニット名`

また、ジョブ管理プラットフォームにおいてマネージャーミドルウェアは論理プロセスとして起動しているため、コマンド実行時には `-h` オプションの指定をしてください。ajsagtshow コマンドを実行する際のコマンド例を次に示します。

- `/opt/jp1ajs2/bin/ajsagtshow -h ジョブ管理マネージャーの接続ホスト名 -l`

ジョブ管理マネージャー上でコマンドを実行するにあたって、以下の注意事項があります。

注意事項

- スーパーユーザ権限を必要とするコマンドを実行できません。
- `/usrfile` 配下以外のディレクトリに対するファイルアクセス（OS や JP1 の実行コマンド指定を除く）や `rm` コマンド、`systemctl` コマンドといったシステム稼働に影響を与えるコマンドを実行することによる環境破壊やサービス停止について保証できません。
- `/usrfile` 配下以外のディレクトリへのファイル配置、コマンド実行により及ぼす影響について保証できません。
- REST API 実行時のルート証明書の認証は信頼できるサイトでの接続のみを認めます。`curl` コマンドの `-k` オプションによる認証スキップはできません。

付録

付録 A 提供環境のパラメータ

付録 A.1 ジョブ管理プラットフォームの利用における前提内容

ジョブ管理プラットフォームの利用における前提内容とその値を以下に示します。

#	前提内容	値	
1	実行エージェントの登録数	2,047	
2	実行エージェントグループの登録数	1,024	
3	1つの実行エージェントグループでグループ化できる実行エージェント数	1,024	
4	想定登録ユニット数	リソース拡張オプション なし	48,000 ユニット
5		あり	240,000 ユニット
6	1日に実行されるジョブ数(想定数)	リソース拡張オプション なし	50,000 ジョブ
7		あり	100,000 ジョブ
8	1時間あたりのジョブ実行数(想定数)	リソース拡張オプション なし	20,000 ジョブ
9		あり	50,000 ジョブ
10	スケジューラーサービスの起動モード	hot (障害発生により JP1/ AJS3 - Manager が停 止した後、復旧する場 合は cold)	
11	ルートジョブネットのスケジュールの有効範囲	48 時間	
12	OS	Red Hat Enterprise Linux	
13	言語設定	ja_JP.UTF-8	
14	タイムゾーン	Asia/Tokyo	
15	改行コード	LF	
16	/usrfile の容量 (ジョブ管理マネージャー上でスクリプトを実行するにあたり、ジョブ管理マネージャー上にスクリプトを保管できる容量)	10GiB	

付録 A.2 ジョブ管理プラットフォームに設定されているパラメータ

ジョブ管理プラットフォームに設定されているパラメータを以下に示します。

#	設定項目	パラメータ	設定値
1	JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - Agent の数	AGENTLIMITEXTEND	2,048 接続
2	JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - View の数	MAXSESSION	128 接続
3	JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - Web Console の数(REST API の接続数を含む)	CDMAXSESSION	100 接続
4	JP1/AJS3 - View からの AJS3 コマンド実行	—	ajslogprint ajsprint ajsshow
5	JP1/AJS3 - Agent に接続する場合などの通信接続タイムアウト値	ClientConnectTimeout	ジョブ実行制御の場合：90,000 ミリ秒 イベント・アクション制御の場合：1,000 ミリ秒
6	JP1/AJS3 - Agent に接続する場合などのリモート通信接続タイムアウト時のリトライ間隔	ClientRetryInterval	20 秒
7	JP1/AJS3 - Agent に接続する場合などのリモート通信接続タイムアウト時のリトライ回数	ClientRetryCount	2 回
8	接続元制限	CONNECTIONRESTRICTION	なし
9	通信暗号化	AJS3SSL	暗号化なし

付録 A.3 ジョブ管理プラットフォームで転送する JP1 イベント

ジョブ管理プラットフォームと統合管理プラットフォームを両方利用している場合、またはジョブ管理プラットフォームからお客さま環境の JP1/IM や JP1/IM2 に JP1 イベントを転送する設定をしている場合に、ジョブ管理プラットフォームから転送される JP1 イベントを以下に示します。

#	イベント ID	イベント名	イベント発行契機
1	00004104	ジョブネット異常終了イベント	ジョブネット・ジョブネットコネクタが異常終了したとき
2	00004107	ジョブ異常終了イベント	ジョブが異常終了となったとき
3	00004108	ジョブネット警告終了イベント	ジョブネット・ジョブネットコネクタが警告終了したとき
4	00004109	ジョブ警告終了イベント	ジョブが警告終了したとき
5	00004122	ジョブネット開始遅延イベント	ジョブネットが開始遅延となったとき
6	00004123	ジョブネット終了遅延イベント	ジョブネットが終了遅延となったとき

#	イベント ID	イベント名	イベント発行契機
7	00004127	ジョブ終了遅延イベント	ジョブが終了遅延となったとき
8	00004131	ジョブネット閉塞イベント	ジョブネットが閉塞状態となったとき
9	00004148	ジョブネット待ち合わせ滞留イベント	待ち合わせ条件付きジョブネットの待ち合わせ条件が成立できないとき
10	0000414C	ジョブ待ち合わせ滞留イベント	待ち合わせ条件付きジョブの待ち合わせ条件が成立できないとき
11	00004159	起動条件指定世代数到達警告イベント	起動条件付きジョブネットに滞留している世代数が指定値に到達したとき
12	00004165	キューイングおよび実行中状態のジョブ数しきい値到達警告イベント	キューイング状態と実行中状態のジョブ数が指定値に到達したとき
13	000041A5	イベント・アクション制御マネージャのスケジューラサービスに対する未通知情報数しきい値到達警告イベント	イベント・アクション制御マネージャのスケジューラサービスに対する未通知情報数が指定値に到達したとき

付録 A.4 JP1/AJS3 - Agent に設定が推奨されるパラメータ

ジョブ実行エージェントの JP1/AJS3 - Agent に設定が推奨されるパラメータを以下に示します。

(1) Windows の場合

#	設定項目	パラメータ	説明	設定値
1	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1NBQAGENT¥Job]	"IsExecFindExecutable"=	ジョブをロングファイル名で実行するための定義	dword:00000001
2	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1NBQAGENT¥Job]	"LoadUserProfile"=	ユーザープロファイルを読み込むかどうかの定義	dword:00000001
3	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1NBQAGENT¥Job]	"IsAccessTokenCache"=	トークンを再利用するための定義	dword:00000002
4	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1NBQAGENT¥Job]	"SendFileSizeStatus"=	ファイルサイズが上限値に達したときの動作	dword:00000003
5	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1NBQAGENT¥Job]	"LimitSendFileSize"=	ファイルサイズの上限値	dword:00080000
6	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT]	"FilewatchinfContinue"=	ファイル監視ジョブの情報の引き継ぎ	Y
7	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT]	"ClientConnectTimeout"=	イベント・アクション制御マネー	dword:000003E8

#	設定項目	パラメータ	説明	設定値
7	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT]	"ClientConnectTimeout"=	ジャー, イベント・アクション制御エージェント間の通信接続タイムアウト時間	dword:000003E8
8	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogSize_jpoagent"=	ログサイズ (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00100000
9	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogSize_jpoagtsub"=	ログサイズ (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00100000
10	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogSize_jpocwtfMain"=	ログサイズ (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00200000
11	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogSize_jpoeventwatch"=	ログサイズ (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00100000
12	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogSize_jpocwtmMain"=	ログサイズ (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00040000
13	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogNumFiles_jpoagtsub"=	ログの面数 (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00000010
14	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogNumFiles_jpocwtfMain"=	ログの面数 (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:0000000D
15	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogNumFiles_jpoeventwatch"=	ログの面数 (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00000008
16	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogNumFiles_jpocwtmMain"=	ログの面数 (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00000006
17	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AJS2COMMON]	"LARGEFILEUSE"=	ファイル監視ジョブでラージファイルを監視するかどうかを指定	yes

(2) Linux の場合

#	設定項目	パラメータ	説明	設定値
1	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト} ¥JP1NBQAGENT¥Job]	"PipeComTimeout"=	エージェントのパイプ通信タイムアウト値の定義	dword:0000012C

#	設定項目	パラメータ	説明	設定値
2	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1NBQAGENT¥Job]	"AfterForkPipeTimeout"=	ジョブプロセス実行準備完了通知時のタイムアウト値の定義	dword:00000384
3	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1NBQAGENT¥Job]	"SendFileSizeStatus"=	ファイルサイズが上限値に達したときの動作	dword:00000003
4	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1NBQAGENT¥Job]	"LimitSendFileSize"=	ファイルサイズの上限値	dword:00080000
5	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT]	"FilewatchinfContinue"=	ファイル監視ジョブの情報の引き継ぎ	Y
6	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT]	"ClientConnectTimeout"=	イベント・アクション制御マネージャ、イベント・アクション制御エージェント間の通信接続タイムアウト時間	dword:000003E8
7	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogSize_jpoagent"=	ログサイズ (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00100000
8	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogSize_jpoagsub"=	ログサイズ (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00100000
9	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogSize_jpocwtfMain"=	ログサイズ (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00200000
10	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogSize_jpoeventwatch"=	ログサイズ (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00100000
11	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogNumFiles_jpoagsub"=	ログの面数 (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00000010
12	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogNumFiles_jpocwtfMain"=	ログの面数 (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:0000000D
13	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogNumFiles_jpoeventwatch"=	ログの面数 (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00000008
14	[{JP1_DEFAULT 論理ホスト名} ¥JP1AOMAGENT¥LOG]	"LogNumFiles_jpocwtmMain"=	ログの面数 (イベントジョブ各エージェントプロセス単位)	dword:00000006

付録 A.5 JP1/AJS3 - Definition Assistant に設定が必要なパラメータおよび設定が推奨されるパラメータ

ジョブ管理ビューアーの JP1/AJS3 - Definition Assistant に設定が必要なパラメータおよび設定が推奨されるパラメータを以下に示します。

(1) 設定が必要なパラメータ

#	設定ファイル	設定項目	説明	設定値
1	ajs2da.conf(環境設定ファイル)	USERCHECKLEVEL	ユーザー認証レベル ユーザー認証用の入力項目（ユーザー名とパスワード）を表示	1
2		SERVERHOST-USE-REVERSELOOKUP	JP1 ユーザーのユーザーマッピングで使用するサーバホスト名をクライアントマシンでの逆引きで解決	N

(2) 設定が推奨されるパラメータ

#	設定ファイル	設定項目	説明	設定値
1	ajs2da.conf(環境設定ファイル)	MAX-IMPORT-UNIT	インポートできるユニット数の上限値 定義情報のインポート実行時に xls 形式の定義情報管理テンプレート上に表示するユニット数の上限値	65,000
2		MAX-EXPORT-UNIT	エクスポートできるユニット数の上限値 定義情報のエクスポート実行時に xls 形式ファイルで同時に操作するユニット数の上限値	65,000
3		XLSM-MAX-IMPORT-UNIT	インポートできるユニット数の上限値 定義情報のインポート実行時に xlsx 形式の定義情報管理テンプレート上に表示するユニット数の上限値	1,048,556
4		XLSM-MAX-EXPORT-UNIT	エクスポートできるユニット数の上限値 定義情報のエクスポート実行時に xlsx 形式ファイルで同時に操作するユニット数の上限値	1,048,556
5		MAX-BACKUP-FILENUM	実行結果ファイル数の上限値	1,000

#	設定ファイル	設定項目	説明	設定値
5	ajs2da.conf(環境設定ファイル)	MAX-BACKUP-FILENUM	実行結果ファイル格納フォルダに格納する実行結果ファイル数	1,000
6		MAX-ERRLOG-FILENUM	エラー情報ファイル数の上限値 エラー情報ファイル格納フォルダに格納するエラー情報ファイル数	1,000

付録 B 機能の提供有無一覧

JP1/AJS3 の製品が提供している機能一覧を基に、ジョブ管理プラットフォームにおける機能の提供有無を以下に示します。

機能名	提供有無	機能概要
JP1/AJS3-Agent 機能		
ジョブ実行制御	●	マネージャからの実行命令に従い、ジョブ実行します。
イベント・アクション制御	●	マネージャからの実行命令に従い、ジョブ実行します。
JP1/AJS3-View 機能		
View 制御	●	GUI を使ってジョブネットを定義したり、ジョブの状態を画面に表示します。
システム共通ファイルの設定(メニュー活性/非活性化)	×	不要なメニュー項目を非活性状態にして、選択できないようにします。
ウインドウ・ダイアログボックス カスタマイズ	●	ダイアログボックスの設定をカスタマイズします。
ダイアログボックス デフォルト値設定	●	ダイアログボックスの設定項目のデフォルト値を変更します。
ユーザー共通プロファイルのアップロード	●	ダイアログボックスやメニューによるカスタマイズ情報をマネージャにアップロードします。
ユーザー共通プロファイルのダウンロード	●	マネージャにアップロードされているプロファイル情報をダウンロードし、JP1/AJS-View に反映します。
JP1/AJS3-View からの AJS3 コマンド実行	○	JP1/AJS3-View から JP1/AJS3 のコマンドを実行します。
ajslogprint	●	スケジューラサービスのログを取得します。
ajsprint	●	ジョブ定義情報を取得します。
ajsshov	●	実行登録済みのジョブネットまたはジョブの前回までの実行結果、現在の状態等を取得します。
ajsstatus	×	スケジューラサービスの設定情報等を出力します。(オプション指定によっては JP1/AJS3 のマネージャサーバのリソースに負荷が掛かることがあります。)
ウインドウ表示設定	●(View 設定)	ウインドウ表示の設定を行います。
ウインドウ表示項目	●(View 設定)	ウインドウの表示項目(カラム)を追加します。

機能名		提供有無	機能概要
	表示内容更新間隔	●(View 設定)	各種ウィンドウの自動更新間隔を設定します。
	状態記憶設定	●(View 設定)	表示しているウィンドウやユニットを、次回 JP1/AJS3-View 起動時に表示させるかどうかを設定します。
	リモートデスクトップ複数接続設定	●	リモートデスクトップ接続した複数ユーザからの JP1/AJS3-View 接続を可能とします。
	View 操作(運用操作)	●	JP1/AJS3-View を使用しジョブ定義や運用操作を行います。
	カレンダー登録		
	ジョブグループ	●	カレンダー情報(運用日、休業日)を登録します。
	ジョブネット	●	ジョブネットの実行開始日時、処理サイクル、カレンダー情報等を登録します。
	ジョブネット実行登録		
	計画実行登録	●	ジョブネットに定義したスケジュールに従って実行します。
	確定実行登録	●	ジョブネットを登録した時点で定義されているスケジュールに従って、一定期間実行します。
	即時実行登録	●	ジョブネットに定義したスケジュールを無効にし、即時実行します。
	ジョブネット実行登録解除	●	ルートジョブネットの実行登録を取り消します。
	実行予定日時追加	●	開始時刻待ち、保留中のルートジョブネットに対して、前倒し日時変更した場合に、次回実行予定を追加します。
	実行日時一時変更	●	ユニットの実行開始予定日時を一時的に変更します。
	一時的な即時実行	●	ユニットの実行開始予定日時をすぐに実行できる実行開始予定日時に一時的に変更します。
	実行中止	●	次回実行予定または確定スケジュールの実行を中止します。
	保留属性の一時変更	●	次回実行予定または確定スケジュールの実行を一時的に保留、または保留解除します。
	遅延監視の一時変更	●	実行待ちのジョブネットに対して、遅延監視時刻(時間)を一時的に変更します。
	ジョブネット優先順位の一時的変更	●	実行待ちのルートジョブネットに対して、実行優先順位を一時的に変更します。
	強制終了	●	実行中のユニットを強制終了します。

機能名		提供有無	機能概要
	再実行	●	ジョブネットやジョブを再実行します。
	ジョブ状態変更	●	ジョブの状態と戻り値を変更します。
	コマンド実行時の世代指定	●	コマンドでジョブネットの実行登録情報を参照する際に、操作対象とする世代を指定します。
	ジョブネットリリース機能	●	実行中のジョブネットの定義を、指定した日時から自動的に切り替えます。
	待ち合わせ条件設定の一時変更	●	ユニットに対して設定してある待ち合わせの設定を、待ち合わせ対象ユニットごとに一時的に有効または無効化します。
	一時変更情報確認・再操作	●	実行登録したジョブネットやジョブに対して一時的に変更します。
	ルートジョブネットのサスペンド	●	ルートジョブネットの下位にある全世代に対して、ユニットの実行を一時的に抑止し、実行登録中の定義を変更します。
環境設定		●	JP1/AJS3-View の環境を設定します。
タブ：起動			
	自動ログイン	●(View 設定)	JP1/AJS3-View を起動した際に指定した情報で自動ログインします。
	起動モード	●(View 設定)	JP1/AJS3-View を起動した際の起動モード(表示設定)を指定します。
タブ：メイン			
	アイコン表示色	●(View 設定)	JP1/AJS3-View ウィンドウのリストエリアのアイコン表示色を設定します。
	状態/結果のカラーイメージ	●(View 設定)	リストエリアの[状態]と[結果]および詳細情報エリアの[状態]に実行状態、実行結果、遅延を示すカラーイメージを表示させるかどうかを設定します。
	ジョブグループの状態表示	●(View 設定)	リストエリアに表示されるジョブグループに、状態についての説明などを表示するかどうかを指定します。
	ジョブネットをダブルクリック	●(View 設定)	ジョブネットをダブルクリックしたときに表示されるウィンドウを指定します。
	ジョブネットエディタ起動時の排他編集	●(View 設定)	ジョブネットエディタ起動時の排他編集モードの状態を指定します。
	ジョブネットモニタ起動時の監視モード	●(View 設定)	ウィンドウ(メイン画面)から[ジョブネットモニタ]ウィンドウを表示するときの監視モードを指定します。
タブ：エディタ・モニタ			

機能名		提供有無	機能概要
	ユニット名の改行	●(View 設定)	[ジョブネットエディタ]ウィンドウ等でユニットアイコンを表示する際に、ユニット名の改行位置を指定します。
	コメントの表示	●(View 設定)	[ジョブネットエディタ]ウィンドウ等でユニットアイコンを表示する際に、ユニット名の下にコメントを表示するかどうか指定します。
	強調表示	●(View 設定)	[ジョブネットエディタ]ウィンドウ等で強調表示を指定した際の配色を設定します。
	ユニット一覧をダブルクリック	●(View 設定)	[ジョブネットエディタ]ウィンドウまたは[ジョブネットモニタ]ウィンドウのリストエリアで、表示されているユニットをダブルクリックしたときの動作を指定します。
タブ：スケジュール			
	初回実行時間	●(View 設定)	初めてジョブネットやジョブを実行するときの終了予定時刻を指定します。
	[デイリースケジュール] ウィンドウのスケジュールエリアの表示時間	●(View 設定)	[デイリースケジュール]ウィンドウの日時エリアを 24 時間で表示するか 48 時間で表示するかを選択します。
	[マンスリースケジュール] ウィンドウでのシミュレーションの有無	●(View 設定)	スケジュールルールにジョブネットやジョブの実行時間を含めて実行スケジュールを割り出します。
	[デイリースケジュール] ウィンドウおよび [マンスリースケジュール] ウィンドウのツリーエリアでの、ユニットの表示順序	●(View 設定)	ユニット名を名称順で表示するか、実行時刻順で表示するかを選択します。
	表示するスケジュール情報がないルートジョブネットの表示	●(View 設定)	[デイリースケジュール (階層表示)]ウィンドウ等で表示するスケジュール情報がないルートジョブネット等をツリーエリアに表示するかどうかを指定します。
	プランニンググループの表示	●(View 設定)	[マンスリースケジュール]ウィンドウでプランニンググループを表示するかを指定します。
タブ：全般			
	アイコン表示色の変更	●(View 設定)	[アイコン表示色の一覧]で選択した実行状態、実行結果、遅延の表示色として割り当てる色を指定します。
	遅延表示色の優先度	●(View 設定)	ユニットの状態、異常、警告、遅延の状態が同時に発生した際の表示色優先度を指定します。
	保留予定の表示	●(View 設定)	ユニットの状態が待ちの状態、かつ保留属性が設定されている場合のカラーイメージを指定します。

機能名		提供有無	機能概要
	タブ：その他		
	トレースレベル	●(View 設定)	ログファイルに出力する情報のレベルを選択します。
	ログファイルの上限値	●(View 設定)	ログファイルの上限値を MiB 単位で指定します。
	ジョブ種別 (エージェント実行)	○	ジョブ種別を選択します。
	PC ジョブ	●	Windows サーバで処理を実行します。
	UNIX ジョブ	●	UNIX サーバで処理を実行します。
	QUEUE ジョブ	×	用途別のキューを作成し、用途に応じたキューに対してジョブを登録、実行します。
	引き継ぎ情報設定ジョブ	×	先行ジョブが出力した標準出力の内容を切り出して、後続ジョブのパラメータとして引継ぎ実行します
	サブミットジョブ	×	JP1/AJS3 のデフォルトキューに対して、コマンド実行でキューにジョブを直接登録します。
	カスタムジョブ	●	JP1/AJS3 以外のプログラムが JP1/AJS3 と連携して処理を実行します。
	キューレスジョブ	×	ジョブを実行する際にキューを経由せず、ジョブを直接エージェントに送って実行します。
	フレキシブルジョブ	×	クラウド上のオートスケール環境にある実行エージェントなどの直接エージェント管理していないサーバに対して実行します。
	一斉実行機能	×	一つのジョブを複数の実行エージェントで一斉に実行します。
	HTTP 接続ジョブ	●	HTTP プロトコルでリクエストの送信およびレスポンスの受信を行います。
	判定ジョブ	×	実行する条件に合致しているかどうかを判定します。
	判定条件		
	終了コード	×	先行ジョブの終了コード(戻り値)と比較し、従属ジョブの制御を行います。
	ファイル	×	指定したファイルがマネージャーホスト上に存在するか、しないかを判断し、従属ジョブの制御を行います。
	変数(文字列)	×	ルートジョブネット、または先行ジョブから引き継いだ情報から判断し、従属ジョブの制御を行います。

機能名		提供有無	機能概要
	変数(数値)	×	ルートジョブネット、または先行ジョブから引き継いだ情報から判断し、従属ジョブの制御を行います。
	OR ジョブ	×	イベントジョブを先行ジョブとして複数定義しておき、監視する事象がいずれかのイベントジョブで発生した際に後続ジョブを実行します。
イベントジョブ			
	JP1 イベント受信監視ジョブ	●	JP1/Base から条件に合致するイベントを受け取ったときに終了します。
	ファイル監視ジョブ	●	条件に指定した特定のファイルが作成、削除、更新されたときに終了します。 また、ネットワークを介したファイルの監視※ ¹ ができます。
	監視対象ファイルのクローズ チェック用タイムアウト時間設定機能※ ¹	●	ファイル監視ジョブでクローズチェックのタイムアウト時間を設定します。
	メール受信監視ジョブ	●	特定のメールを受信したときに終了します。
	ログファイル監視ジョブ	●	JP1/Base のログファイルトラップ機能と連携し、指定したログファイルに特定の情報が書き込まれたときに終了します。
	Windows イベントログ監視ジョブ	●	JP1/Base のイベントログトラップ機能と連携し、指定したログファイルに特定の情報が書き込まれたときに終了します。
	実行間隔制御ジョブ	●	指定した時間経過後に終了します。
	メッセージキュー受信監視ジョブ	●	TP1/Message Queue または MQSeries から特定のメッセージを受信したときにイベントジョブが終了します。
	MSMQ 受信監視ジョブ	●	Microsoft Message Queuing からの特定のメッセージを受信したときに終了します。
アクションジョブ			
	JP1 イベント送信ジョブ	●	JP1 イベントを JP1/Base のイベントサービスに登録します。
	メール送信ジョブ	●	メールを送信します。
	JP1/Cm2 状態通知ジョブ	●	JP1/Cm2/NNM または HP NNM に状態を通知します。
	ローカル電源制御ジョブ	●	JP1/Power Monitor と連携し、ローカル電源制御ジョブを実行したサーバをシャットダウンします。

機能名		提供有無	機能概要
	リモート電源制御ジョブ	●	JP1/Power Monitor と連携し、ネットワーク上のサーバの電源投入や、システムを終了します。
	メッセージキュー送信ジョブ	●	TP1/Message Queue または MQSeries のメッセージを送信します。
	MSMQ 送信ジョブ	●	Microsoft Message Queuing のメッセージを送信します。
	ジョブネットコネクタ	×	ルートジョブネットを関連付けることでルートジョブネット同士の実行順序を制御します。
	リモートジョブネット	×	自マネージャで定義したジョブネットを転送し、別マネージャ上で実行します。
	起動条件	●	実行する日時をあらかじめ指定できない不規則なイベントに対して監視を行うための条件の指定を行います。
	クラウド連携ジョブ	●	クラウドプラットフォームが提供するクラウドサービスと連携するカスタムジョブです。対象のクラウドプラットフォームは以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> • AWS • Azure^{※1}
ジョブ種別 (マネージャ実行) ^{※2}		○	ジョブ種別を選択します。
	PC ジョブ	×	Windows サーバで処理を実行します。
	UNIX ジョブ	●	UNIX サーバで処理を実行します。
	QUEUE ジョブ	×	用途別のキューを作成し、用途に応じたキューに対してジョブを登録、実行します。
	引き継ぎ情報設定ジョブ	●	先行ジョブが出力した標準出力の内容を切り出して、後続ジョブのパラメータとして引継ぎ実行します。
	サブミットジョブ	×	JP/AJS3 のデフォルトキューに対して、コマンド実行でキューにジョブを直接登録します。
	カスタムジョブ	×	JP1/AJS3 以外のプログラムが JP1/AJS3 と連携して処理を実行します。
	キューレスジョブ	×	ジョブを実行する際にキューを経由せず、ジョブを直接エージェントに送って実行します。
	フレキシブルジョブ	×	クラウド上のオートスケール環境にある実行エージェントなどの直接エージェント管理していないサーバに対して実行します。
	一斉実行機能	×	一つのジョブを複数の実行エージェントで一斉に実行します。

機能名		提供有無	機能概要
	HTTP 接続ジョブ	●	HTTP プロトコルでリクエストの送信およびレスポンスの受信を行います。
	判定ジョブ	●	実行する条件に合致しているかどうかを判定します。
	判定条件		
	終了コード	●	先行ジョブの終了コード(戻り値)と比較し、従属ジョブの制御を行います。
	ファイル	●	指定したファイルがマネージャーホスト上に存在するか、しないかを判断し、従属ジョブの制御を行います。
	変数 (文字列)	●	ルートジョブネット、または先行ジョブから引き継いだ情報から判断し、従属ジョブの制御を行います。
	変数 (数値)	●	ルートジョブネット、または先行ジョブから引き継いだ情報から判断し、従属ジョブの制御を行います。
	OR ジョブ	●	イベントジョブを先行ジョブとして複数定義しておき、監視する事象がいずれかのイベントジョブで発生した際に後続ジョブを実行します。
	イベントジョブ		
	JP1 イベント受信監視ジョブ	●	JP1/Base から条件に合致するイベントを受け取ったときに終了します。
	ファイル監視ジョブ	●	条件に指定した特定のファイルが作成、削除、更新されたときに終了します。 また、ネットワークを介したファイルの監視※1ができます。
	メール受信監視ジョブ	×	特定のメールを受信したときに終了します。
	ログファイル監視ジョブ	×	JP1/Base のログファイルトラップ機能と連携し、指定したログファイルに特定の情報が書き込まれたときに終了します。
	Windows イベントログ監視ジョブ	×	JP1/Base のイベントログトラップ機能と連携し、指定したログファイルに特定の情報が書き込まれたときに終了します。
	実行間隔制御ジョブ	●	指定した時間経過後に終了します。
	メッセージキュー受信監視ジョブ	×	TP1/Message Queue または MQSeries から特定のメッセージを受信したときにイベントジョブが終了します。
	MSMQ 受信監視ジョブ	×	Microsoft Message Queuing からの特定のメッセージを受信したときに終了します。

機能名		提供有無	機能概要
	アクションジョブ		
	JP1 イベント送信ジョブ	●	JP1 イベントを JP1/Base のイベントサービスに登録します。
	メール送信ジョブ	×	メールを送信します。
	JP1/Cm2 状態通知ジョブ	×	JP1/Cm2/NNM または HP NNM に状態を通知します。
	ローカル電源制御ジョブ	×	JP1/Power Monitor と連携し、ローカル電源制御ジョブを実行したサーバをシャットダウンします。
	リモート電源制御ジョブ	×	JP1/Power Monitor と連携し、ネットワーク上のサーバの電源投入や、システムを終了します。
	メッセージキュー送信ジョブ	×	TP1/Message Queue または MQSeries のメッセージを送信します。
	MSMQ 送信ジョブ	×	Microsoft Message Queuing のメッセージを送信します。
	ジョブネットコネクタ	●	ルートジョブネットを関連付けることでルートジョブネット同士の実行順序を制御します。
	リモートジョブネット	×	自マネージャで定義したジョブネットを転送し、別マネージャ上で実行します。
	起動条件	●	実行する日時をあらかじめ指定できない不規則なイベントに対して監視を行うための条件の指定を行います。
	クラウド連携ジョブ	×	クラウドプラットフォームが提供するクラウドサービスと連携するカスタムジョブです。対象のクラウドプラットフォームは以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> • AWS • Azure^{※1}
JP1/AJS3-Web Console 機能			
	Web GUI 制御	●	Web ブラウザからユニットの監視や操作を行います。
	Web GUI 表示色変更	×	Web GUI 上の各画面およびダイアログボックスの表示色を変更します。
	Web GUI を使用するユーザ操作権限設定	×	ログインする JP1 ユーザごとに Web GUI で出来る操作を制限します。
	最大同時セッション数	●	Web GUI に接続可能なセッション数を製品最大値に拡張します。

機能名		提供有無	機能概要
	接続打ち切り時間	●	最後の通信から一定時間が経過した場合に JP1/AJS3 - Manager から Web GUI への接続を打ち切る時間を設定します。
	ログオン情報再利用+共有セッション数	×	ログオン情報をセッションごとに再利用することで、デスクトップヒープの使用量の節約を可能とします。
	自動更新間隔※1	●	ダッシュボード画面、リスト画面、モニタ画面などの画面の自動更新間隔を設定します。
	セッションタイムアウト時間※1	●	無操作時のセッションタイムアウト時間を設定します。
	長時間連続使用時のメッセージ表示※1	●	ログイン後 25 時間経過した場合のリロード要求メッセージの表示・非表示を選択可能にします。メッセージを非表示にした場合、ログイン後 25 時間経過時に自動で画面のリロードが行われます。
	ダッシュボード画面	●	ユニットの監視や保留属性を設定します。
	ユニット実行	●	ジョブネットの実行登録操作等を行います。
	即時実行登録	●	実行予定を即時実行します。
	計画実行登録	●	ジョブネットに定義したスケジュールに従って実行します。
	確定実行登録	●	ジョブネットを登録した時点で定義されているスケジュールに従って、一定期間実行します。
	実行登録解除	●	ルートジョブネットの実行登録の取り消しを行います。
	実行予定追加	●	ルートジョブネットに確定スケジュールを追加します。
	ユニット監視	●	ジョブ運用の状況監視を行います。
	実行状況監視	●	ジョブネットの実行状況を確認します。
	業務進捗監視	●	監視対象日のルートジョブネット等の進行状況を確認します。
	実行予定確認	●	ユニットの次回予定を確認します。
	1ヶ月毎の実行スケジュール確認	●	一か月の実行スケジュールを確認します。
	待ち合わせ条件の状態一覧表示	●	待ち合わせ条件の状態を一覧表示します。
	ジョブネットコネクタの接続情報表示	●	ジョブネットコネクタの接続情報を表示します。
	ユニット操作	●	ジョブ運用操作 (実行中止, 再実行, 保留/保留解除, 計画一時変更等)を行います。
	保留属性変更	●	ユニットの保留を設定・解除します。

機能名		提供有無	機能概要
	中断	●	実行中のジョブネットを中断します。
	強制終了	●	実行中のジョブネットを強制終了します。
	再実行	●	ユニットを再実行します。
	ジョブ状態変更	●	ジョブの状態を変更します。
	計画一時変更(日時変更)	●	選択したユニットの実行予定の開始予定日時を変更します。
	計画一時変更(即時実行)	●	選択したユニットの実行予定を即時実行します。
	計画一時変更(実行中止)	●	選択したユニットの実行予定の実行を中止します。
	計画一時変更(変更解除)	●	選択したユニットの実行予定の一時変更を解除します。
	遅延監視変更	●	ユニットの遅延監視方法を変更します。
	実行エージェント管理	●	実行エージェントの追加, 削除, 変更を行います。
	GUI 視認性強化	×	ツールバーの表示色を変更し, 接続先を明確化します。
JP1/Base 機能(AJS3 関連機能)			
	ユーザー認証機能	●	JP1/Base の持つ認証サーバでユーザ認証を行います。
	ユーザマッピング機能	●	JP1 ユーザーと OS ユーザーの対応付けを行います。
	JP1 管理者グループ	×	スーパーユーザ以外の OS ユーザでも JP1/Base を運用できるようにします。
ユニットアクセス制限			
	ユニット所有者権限	●	ジョブやジョブネットに対して所有権限を付与することで, 所有者権限を持っていないユーザからのアクセス, 実行を防ぐようにします。
	JP1 資源グループ	●	JP1 ユーザをグルーピングし, 権限管理を行います。
	実行ユーザ種別	●	ジョブ実行時の JP1 ユーザを, ユニットの所有者かジョブネットを登録したユーザか選択します。
プラットフォーム連携			
	統合管理プラットフォーム	●	JP1/IM2 と連携します。
	JP1/AJS3 プラグイン	●	統合管理プラットフォームの JP1/IM2 と連携するためにプラグインの導入を行います。

機能名	提供有無	機能概要
REST API 接続 (エージェント→ジョブ管理マネージャー) ※1		
API 利用	●	任意のユーザーアプリケーションからジョブ管理プラットフォームのサービスを制御, 参照します。
API 分類		
ユニット一覧取得	●	指定したユニットまたはユニット配下のジョブグループ, ジョブネット, およびジョブの情報を取得する API です。
ユニット情報取得	●	指定したユニットの情報を取得する API です。
実行結果詳細取得	●	実行が終了したユニットの実行結果の詳細を取得する API です
待ち合わせ条件の状態一覧取得	●	指定されたユニットの待ち合わせ条件と待ち合わせ条件に設定されている待ち合わせ対象ユニットの状態一覧を取得する API です。
計画実行登録	●	指定したジョブネットを計画実行登録する API です。
確定実行登録	●	指定したジョブネットを確定実行登録する API です。
即時実行登録	●	指定したジョブネットを即時実行登録する API です。
登録解除	●	指定した実行登録中のジョブネット登録を解除する API です。
保留属性変更	●	指定したユニットの保留属性を変更する API です。
遅延監視変更	●	指定した実行登録済みジョブネットの遅延監視設定を一時的に変更する API です。
ジョブ状態変更	●	指定したジョブの状態を変更する API です。
計画一時変更(日時変更)	●	指定した実行登録済みジョブネットの実行開始予定日時を一時的に変更する API です。
計画一時変更(即時実行)	●	指定した実行登録済みジョブネットの実行スケジュールを一時的に変更し即時実行する API です。
計画一時変更(実行中止)	●	指定した実行登録済みジョブネットの実行スケジュールを一時的に変更し実行を中止する API です。
計画一時変更(変更解除)	●	実行開始日時の一時変更および実行中止を解除し, 変更前の情報に戻す API です。

機能名		提供有無	機能概要
	中断	●	指定した実行中のルートジョブネットを中断する API です。
	強制終了	●	指定した実行中のジョブおよびルートジョブネットを強制終了する API です。
	再実行	●	指定したユニットを再実行する API です。
	待ち合わせ状態変更	●	指定したユニットと待ち合わせ条件で指定した待ち合わせ対象ユニットとの待ち合わせ状態を一時的に変更する API です。
	実行順序制御方式変更	●	指定したルートジョブネットの実行順序制御方式を一時的に変更する API です。
	実行エージェント状況一覧取得	●	マネージャーホストに登録されている実行エージェントの状況一覧を取得する API です。
	実行エージェント状況取得	●	マネージャーホストに登録されている実行エージェントの状況を取得する API です。
	実行エージェント定義取得	●	マネージャーホストに登録されている実行エージェントの定義を取得する API です。
	実行エージェント追加	●	マネージャーホストに実行エージェントを追加する API です。
	実行エージェント削除	●	指定した実行エージェントをマネージャーホストから削除する API です。
	実行エージェント設定変更	●	マネージャーホストに設定されている実行エージェントの設定を変更する API です。
	実行エージェントの受付配信制限状態変更	●	マネージャーホストに登録されている実行エージェントに対して受付配信制限の状態を変更する API です。
	実行エージェントの状態変更	●	マネージャーホストに登録されている実行エージェントに対して状態を変更する API です。
	ジョブ配信遅延軽減機能通信状態確認	●	マネージャーホストでジョブ配信遅延における軽減機能の通信状態確認操作を行う API です。
	実行エージェントグループ状況一覧取得	●	マネージャーホストに登録されている実行エージェントグループの状況一覧を取得する API です。
	実行エージェントグループ定義取得	●	マネージャーホストに登録されている実行エージェントグループの定義を取得する API です。
	実行エージェントグループ追加	●	マネージャーホストに実行エージェントグループを追加する API です。
	実行エージェントグループ削除	●	指定した実行エージェントグループをマネージャーホストから削除する API です。

機能名		提供有無	機能概要
	実行エージェントグループ設定変更	●	マネージャーホストに設定されている実行エージェントグループの設定を変更する API です。
	実行エージェントグループの受付配信制限状態変更	●	マネージャーホストに登録されている実行エージェントグループに対して受付配信制限の状態を変更する API です。
	実行エージェント除外,追加,優先順位変更	●	マネージャーホストに登録されている実行エージェントグループに対して,実行エージェントの除外,追加,または優先順位の変更をする API です。
	バージョン情報取得	●	製品のバージョン情報を取得する API です。
	JP1/AJS3 - Manager プロトコルバージョン取得	●	接続先 JP1/AJS3 - Manager のプロトコルのバージョンを取得する API です。
REST API 接続 (ジョブ管理マネージャー→エージェント) ※2		●	ジョブから REST API 接続で外部のアプリケーションが公開している API を利用することを可能にする機能です。

(凡例)

- : 提供あり
- : 提供ありだが一部制約あり
- × : 提供なし

注※1 JP1 Cloud Service 01-10 以降で利用可能です。

注※2 JP1 Cloud Service 01-12 以降で利用可能です。

付録 C 各バージョンの変更内容

各バージョンでの変更点を次に示します。

付録 C.1 01-12 の変更内容

- ジョブ管理マネージャー上でのジョブ実行の説明を追加した。
- リソース拡張オプションなしにおけるジョブ実行の想定数を変更した。
- REST API 接続の説明を追加した。
- 判定ジョブの機能提供有無を訂正した。
- ジョブ管理プラットフォームの「高信頼モデル」における系切り替えへの注意事項を追加した。

付録 C.2 01-11 の変更内容

- ジョブ管理プラットフォーム - エージェントの適用 OS に Windows Server 2022 を追加した。
- ジョブ管理プラットフォームに設定されているパラメータ ClientConnectTimeout の設定値を訂正した。

付録 C.3 01-10 の変更内容

- REST API 接続をサポートした。
- JP1/AJS3 に新規に追加された機能をサポートした。
- 本サービスと Azure 環境とを接続する場合の説明を追加した。

付録 C.4 01-01 の変更内容

- 前提ソフトウェアとして選択可能な Web ブラウザーに Microsoft Edge を追加した。

付録 D.1 製品名の表記

表記		正式名称
JP1/AJS3		JP1/Automatic Job Management System 3
JP1/IM		JP1/Integrated Management
		JP1/Integrated Management 2
JP1/IM2		JP1/Integrated Management 2
Linux	CentOS 6 (x64)	CentOS 6 (x64)
	CentOS 7	CentOS 7
	CentOS 8	CentOS 8
	Linux 6.1 (x64)	Red Hat Enterprise Linux(R) Server 6.1 (64-bit x86_64)
	Linux 7.1	Red Hat Enterprise Linux(R) Server 7.1
	Linux 8.1	Red Hat Enterprise Linux(R) Server 8.1
	Oracle Linux 6 (x64)	Oracle Linux(R) Operating System 6 (x64)
	Oracle Linux 7	Oracle Linux(R) Operating System 7
	Oracle Linux 8	Oracle Linux(R) Operating System 8
	SUSE Linux 12	SUSE Linux(R) Enterprise Server 12
SUSE Linux 15	SUSE Linux(R) Enterprise Server 15	

(英字)

JP1/AJS3

業務を自動的に運用するためのプログラムです。処理を順序付けて定期的に行ったり、特定の事象が発生したときに処理を開始したりできます。

JP1/Base

JP1/AJS3 の前提プログラムです。JP1/AJS3 を使ったシステムを導入する場合、JP1 ユーザーの操作の権限を設定できます。

JP1 イベント

システムで発生した事象を JP1 で管理するための情報です。このマニュアルではイベントと略している場合もあります。

JP1 ユーザー

JP1 を使用するためのユーザーです。

(ア行)

オンプレミス

自社内の管理する設備に情報システムのハードウェアを設置して運用する形態のことです。

(サ行)

サービスポータル

JP1 Cloud Service が提供する、お客様がセルフサービスで操作可能な GUI プログラムです。

ジョブ

JP1/AJS3 における、業務処理の最小単位です。

ジョブ管理ビューアー

ジョブ管理マネージャーを操作するための機能です。主に以下の構成物から構成されます。

- JP1/AJS3 - View

ジョブ管理マネージャー

複数の業務の内容と実行順序を定義し、保存した定義を自動で実行することによって、業務の運用を管理する機能です。主に以下の構成物から構成されます。

- JP1/AJS3 - Manager
- JP1/Base

ジョブグループ

ジョブネットをまとめたり分類したりして体系的に管理するためのグループです。

ジョブ実行エージェント

ジョブ管理マネージャーから指示されたジョブを実行する機能です。主に以下の構成物から構成されます。

- JP1/AJS3 - Agent
- JP1/Base

ジョブ管理マネージャー側で管理される、ジョブの実行先に関する設定を示す場合もあります。

ジョブネット

実行順序を関連づけたジョブの集まりです。ジョブネットを実行すると、ジョブネット中のジョブが実行順序に従って自動的に実行されます。

(ヤ行)

ユニット

JP1/AJS3 における、自動化する業務を構成する一つ一つの要素(ジョブグループ、ジョブネット、ジョブなど)です。

索引

J

- JP1/AJS3 との機能差異 12
- JP1/AJS3 [用語解説] 57
- JP1/AJS3 - Agent への設定推奨パラメータ 36
- JP1/AJS3 - Definition Assistant への設定推奨パラメータ 39
- JP1/AJS3 - Definition Assistant への設定必要パラメータ 39
- JP1/Base [用語解説] 57
- JP1 イベント [用語解説] 57
- JP1 ユーザー認証統合 14
- JP1 ユーザー [用語解説] 57

お

- オンプレミス [用語解説] 57

き

- 機能の提供有無 41
- 業務の監視 27
- 業務の再実行 27
- 業務の実行 27
- 業務の自動化 27
- 業務の定義 27
- 業務の定義の修正 27

こ

- 構築の流れ 20

さ

- サービスポータル [用語解説] 57
- サービス利用ユーザーの作成 21

し

- システム構成 11
- ジョブ管理ビューアーのインストール 24
- ジョブ管理ビューアーの構築 24
- ジョブ管理ビューアーのセットアップ 24

- ジョブ管理ビューアー [用語解説] 57
- ジョブ管理プラットフォームで転送する JP1 イベント 35
- ジョブ管理プラットフォームで利用するポート番号 16
- ジョブ管理プラットフォームの概要 9
- ジョブ管理プラットフォームの機能 12
- ジョブ管理プラットフォームの構築 19
- ジョブ管理プラットフォームの前提内容 34
- ジョブ管理プラットフォームのパラメータ 34
- ジョブ管理プラットフォームの利用方法 (応用編) 28
- ジョブ管理プラットフォームの利用方法 (基本編) 26
- ジョブ管理マネージャー上
 - ジョブ実行の仕組み 29
 - ジョブを実行するための手順 29
- ジョブ管理マネージャーにログイン (JP1/AJS3 - View) 24
- ジョブ管理マネージャーにログイン (Web ブラウザー) 25
- ジョブ管理マネージャー [用語解説] 58
- ジョブグループ [用語解説] 58
- ジョブ実行エージェント登録 23
- ジョブ実行エージェントのインストール 22
- ジョブ実行エージェントの構築 22
- ジョブ実行エージェントのセットアップ 22
- ジョブ実行エージェント [用語解説] 58
- ジョブネット [用語解説] 58
- ジョブ [用語解説] 57

せ

- 前提ソフトウェア 15

と

- 統合管理プラットフォームとの連携 14

は

- パラメータ 34

ひ

標準モデルと高信頼モデルとの差異 13

ふ

プロアクティブ監視 14

も

モニター起動 14

ゆ

ユニット [用語解説] 58

 株式会社 日立製作所

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号
